



壬生町政だより

住民登録人口		
	昭和46年1月1日現在	対前月比
総人口	25,838人	46人増
男	12,766人	26人増
女	13,072人	20人増
世帯数	5,704世帯	21世帯増

発行所 栃木県壬生町夜場 (毎月24日発行) 昭和34年9月30日第三種郵便物認可 一部 5円00銭

一月三十一日は栃木県知事選挙の投票日です



助谷Aチームが優勝

— 第1回新春駅伝競走 —

壬生町青年団協議会の主催で行なわれた第1回新春駅伝競走は、1月17日午前10時、中央公民館を出発しました。

参加チームは、青年団支部9チームとオープン参加3チーム計12チーム84人の選手が参加して力走された。

青年団は助谷Aチームが、また、オープン参加は国谷4日チームがそれぞれ初優勝しました。

レースは、中央公民館を出発して-福和田-助谷-上田-中泉-羽生田-七ツ石-稲葉-下馬木-中央公民館の7区間20.7キロのコースで争われました。

結果は、①助谷A②北小林③助谷B④藤井⑤下稲葉

また、オープン参加では、①国谷4日②万町③昭和テープの順でした。

なお、青年団の優勝チーム、助谷Aチームには下野新聞社からメダルが贈られました。

2月の納税

お忘れなく
固定資産税 第4期分
国民年金 1.2.3月分

改正農地法のあらまし

(その三)

緩和された法人要件

農業生産法人の要件緩和

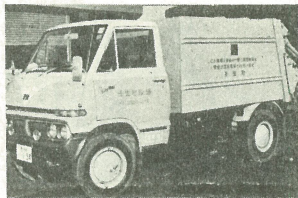
いまの法律では、農業生産法人... 法人の構成員として認められることになりました。

保有合理化法人を新設

農地保有合理化法人を新設することになった。これまでは、農業委員会に...

経営規模の拡大や農地の集団化... 新設

この法人は、農協階と、市町村... 昭和三十九年八月から、ミ脱却



購入したゴミ収集車

昭和三十九年八月から、ミ脱却... 昭和三十九年八月から、ミ脱却

違反な建築行為のパトロール

都市計画法の法律が定められ... 違反な建築により監督処分

毎月1日と 第3水曜日は 交通安全日です

商業診断結果まとまる

商店街の発展を方向づける

立地条件、競争関係と、商業... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

成人式風景 ↓ 一月十五日は成人の日、この日... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度



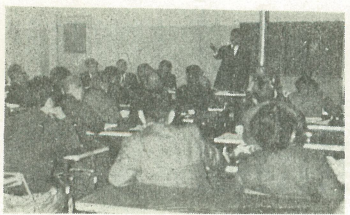
学生寮入寮者募集 栃木県育英会では、四十六年度... スキー教室 壬生町教育委員会では、スキー

成人者おめでとう

この日成人になった人は、昭和... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

カープミラーを増設 町では、交通安全施設事業の一... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

協力ありがとう 先頃実施しました東バキスタン... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度



役場会議室で開かれた報告会... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

積極的な商業活動を... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

成人者は、「今後については... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度

お礼申し上げます... 昭和三十九年四月二日から、二十六年度



お知らせ

職員募集

役場では、次のとおり職員を募集します。

○職務内務および採用人員
 ①土木技術者 若干名
 ②土木工務員 若干名
 ③電話交換手 一名

○資格
 ①農業土木を含む、土木技術者およびこれに準ずる者
 ②父母の資格を有する者
 ③中卒以上、経験を問わず

○手続書
 履歴書、写真、住民票謄本、健康診断書、最終学校卒業証明書または見込証明書

○提出先 役場総務課庶務係

○締切日 二月十日(水)

乳児検診

昭和四十五年二月一日以降に生まれたお子さん。

○とき 二月二十三日、二十四日、午後 時三十分

○ところ 中央公民館

○ところ 地域は、
 二十三日 下表町、中表町、下横町、今井、上表町、東下倉、城東町、舟町、栄町、仲通町、上通町、三好町、旭町
 二十四日 川方町、上新町、下馬木西高野、城内、城南、馬場、原宿

田向、上坪、前循環、合球、星の宮、至宝町、六美町、ひばりヶ丘

妊婦検診

全妊婦が該当します。

○とき 二月二十五日

○ところ 中央公民館

○時間 午後一時三十分～二時三十分

母親教室

○とき 二月十五日

午後 時三十分まで
 お集まりください。

○ところ 母子健康センター

廃犬引き取り日

廃犬は、はなさないで廃犬引き取り日に出してください。

○日 種
 二月十日

○場所および時間
 役場本庁 九時三十分まで
 南六側支所 夕四十分まで
 稲葉支所 十時まで

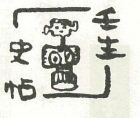
善意銀行

壬生町上表町の壬生中三年鈴木和英君は、お金を拾い警察署に届けたところ、その善し主がわからず本人にもとつたため、これを困っている人にあけてくださいと、金一、〇七〇円を善意銀行に寄付されました。

また、舟町の木島光義さんは六七一円を、舟町の五十嵐麗子さん(壬生中三年)は一、〇〇八円を困っている人にあけてくださいと一円玉でそれぞれ善意銀行に寄付されました。

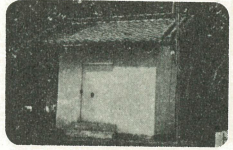
人事消息

△採用(十一月一日付)
 松本 完(民生課)
 一月一日付
 中田和男(下水道管理事務所)
 小林好雄(水道課)



元忠と伏見城

「露とおち露と消えぬわが身かな、ならにわのことは夢のまた夢」が、筆世と伝えられる豊臣秀吉が、慶長三年死去してから、天下の実権は豊臣が徳川に移動し、



元忠の遺品

「今度上方縁起して凶徳の味、石田の奸謀におちりし城、伏見城」を歌落さんです。我等に於ては何十万騎なりと一方を打破して退くこと手間どり、(精神社)ぬが、これは武士の蔵こそ常の法なり。我等が先祖代々御隠代を蔵にて忠を尽し、中略の遺品一吾は十三歳にて上様十歳の時より今に至るまで召し使われ御恩を蒙りかたじけなきことを生々世々忘るべからず。今回上方の押へして伏見の城代を承る事武門名利に叶いたる処なり、吾討死の後は幼稚なる弟どもをいつくしみ、弟どもは新太郎を親とも思い、御恩を以て家を立て、代々上様御家と共に盛衰安泰を共にすべし。國所領等に眼くみ旧恩を忘れ、かりそめにも別心あるべからず。たとい日本國中どこごとく敵となるとも心忘るべからず。」と。「福田」

1 2 3